



ヤツデの花  
(玄関)

# つな が り

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~  
~やさしく かしく たくましく~

第 9 号

令和4年12月7日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園

## 「幼小中一貫教育実践研究発表会」を開催しました

副園長 大森 洋子

絵本コーナーにクリスマスツリーが飾られ、「♪あわてんぼうのサンタクロース♪」の歌声が聞こえてくる頃になりました。大人にとっては少し慌ただしいこの時期ですが、子どもたちの心はワクワク感でいっぱいようです。大型ブロックで「お菓子工場」を作っていた星組さんが、「ここからいろいろなお菓子が出てくるんだよ」「ここにはサンタさんがいるんだよ」と話してくれました。かわいいですね。子どもたちの夢でいっぱいの思いをしっかりと受けとめながら、一緒に12月の生活を楽しみたいと思います。



さて、前号でも少し触れましたが、「よりよい未来を共に創り出す人間」を目指す子ども像とするやまぐち学園では、去る11月25日に、「対象・他者・自己と向き合う子どもを視点とした保育・授業づくり」を研究主題として、「幼小中一貫教育実践研究発表会」を開催しました。附属幼稚園・小学校・中学校が公開保育・授業を行い、多くの参観者（約350名・幼稚園には85名程度）に見ていただき、午後には分科会や講演会を行いました。3年ぶりの公開保育で、子どもたちの姿や園環境を実際に見ていただき、12年間の子どもの育ちのつながりを感じていただいたり、子どもの育ちと援助について共に考えたりすることができました。

保護者の皆様には、環境整備や短時間保育など多くのご協力いただき本当にありがとうございました。おかげさまで、とても有意義な会となり、心より感謝申し上げます。

以下に、研究会参加者の感想をいくつかご紹介します。



- ・環境が良く整えられており、子どもたちが生き生きと遊んでいるのが印象的だった。
- ・子どもが自立して、自分がしたい遊びが一人一人できる環境をつくることの大切さを感じました。
- ・成長を見通して育むこと、幼小中の一貫した学びがあることを改めて実感した。
- ・保育者の援助や環境が勉強になった。
- ・自らやってみようとする姿、意欲的に活動する姿が印象に残り、それらは環境と適切な支援によってできているものだと感じた。
- ・自分の保育を改めるととても有意義な時間でした。
- ・幼小中全ての先生が同じねらいや育てたい子どもの姿を共有して子どもと向き合うことで、見直すきっかけになったり、願いをもって子どもと関わることができると感じました。附属学校だけでなく、公立や私立の施設でもこれができたら理想なのかなと思いました。
- ・学園としてつながっている幼小中であるので、これだけの一貫教育ができる。理想的でうらやましい限りです。
- ・異校種間での連携は、実際難しい面もあると思いますが、それを探究され続けていることに敬服しています。教育はすぐに結果がでるものではないけれど、継続するからこそ得られる成果が光のように見えてくる…それがうらやましいです。やまぐち学園での取り組みを光に私たちも頑張っていこうと思いました。





**最後の農場 (11/30・星組)**：大きなダイコン・ハクサイ・カブを収穫し、ダイコンやカブは土を洗い落として持ち帰りました。今年はたくさんあったので、花組さんと風組さんにダイコンのお裾分けができました。幼稚園で育てて刈り取った稲を千歯こきで脱穀する体験もし、おにぎりにして食べました。

幼小中の教員同士で、「研究会が終わったら交流しようね」と話していたこともあって、11月下旬からは、小学校や中学校との交流が続いています。

特に星組さんは忙しいですが、小学校が身近になりつつある時期なので、たくさんの刺激をもらっているようです。何よりも、子どもたちは皆、お兄さんお姉さんのことが大好きです。こういう風に年上の人たちと出会い、触れ合える生活はとても素敵だなと思います。



**1の1と星組の交流**：1年生が「生活科」の授業で取り組んだお店に招待してくれました。興味津々で、積極的に関わっていました。



附属中の3年A組～D組が、1クラスずつ計4回、「家庭科」の授業で保育実習に来ています。正味30分程度ですが、中学生は自分たちで一生懸命考えてきたゲームやクイズ、お話などを見せたり一緒にしたりしてくれます。よく実態が分からないままに準備してくるので、園児にとっては難しい内容のこともあります。子どもたちは中学生の説明を一生懸命聞いたり見たりして取り組んでいます。大好きなお兄さんやお姉さんの言うことは、自然と聞きたい気持ちになるんですね。理屈ではなく、魅力的な存在なのだと思います。

### 避難訓練と非常食体験をしました

12/1(木)には、地震を想定した避難訓練を実施しました。放送で地震の音が流れている間は揺れていると想定して、ダンゴムシのポーズをとったりテーブルの下にもぐったりして身を守り、揺れが収まったら防災ヘルメットを被って避難しました。

避難訓練は4回目、地震訓練は2回目なので、放送を聞いたり、避難場所を確認したり、押さずに静かに逃げたりなどがとても上手になっています。非常時の行動の仕方が少しでも身に付くといいなと思います。

避難訓練翌日の12/2(金)には、非常食体験を行いました。備蓄のα米をお湯で戻し、レトルトカレー(アレルギー対応)を温めて、非常用の紙皿とスプーンを使って食べ、お茶も紙コップに入れて飲みました。「園でお迎えを待つようなことがあっても園には食べる物がちゃんとあるから大丈夫だよ」「ガスや水道が使えなくても食べられる物があるんだよ」などと担任から教えてもらって、子どもたちは安心すると共に、「非常食」ということばを覚えました。α米は水でも戻すことができ、カレーも温めなくても食べられるものですが、今回はお湯で戻し、温めて食べました。寒い日だったため温かいカレーがうれしかったのか、子どもたちが「おいしい、おいしい」とたくさん食べてくれたので安心しました。

